

2013年度決算及び 2014年度業績見通し 説明会

2014年5月8日

6807 日本航空電子工業株式会社
社長 秋山保孝

I. 2013年度決算

II. 2014年度業績見通しとそのポイント

注：金額表示は1億円未満四捨五入

I. 2013年度決算

1.2013年度決算概要



() = 売上高利益率

(億円)

主要項目	1 2 年度	1 3 年度	前年比
売上高	1,296	1,598	123%
営業利益	86 (6.6%)	165 (10.3%)	192%
経常利益	77 (6.0%)	155 (9.7%)	200%
純利益	51 (3.9%)	106 (6.6%)	210%

期中平均為替レート:

82.91

100.17

(円/ \$)

1-1. 経営改革Phase3 中期フィナンシャルターゲットの達成



2011年5月に発表した中期フィナンシャルターゲット

(億円)

1. 経営改革Phase3 中期フィナンシャルターゲット

航空電子

(億円)

年度		07	10	11e	13e ターゲット
全社	売上高	1,562	1,106	1,170	1,500 ^{以上}
	経常利益率	7.8%	5.0%	6.2%	8% ^{以上}
コネクタ	売上高	1,199	854	925	1,200 ^{以上}
	営業利益率	13.6%	10.7%	11.4%	13% ^{以上}

13
実績

1,598

9.7%

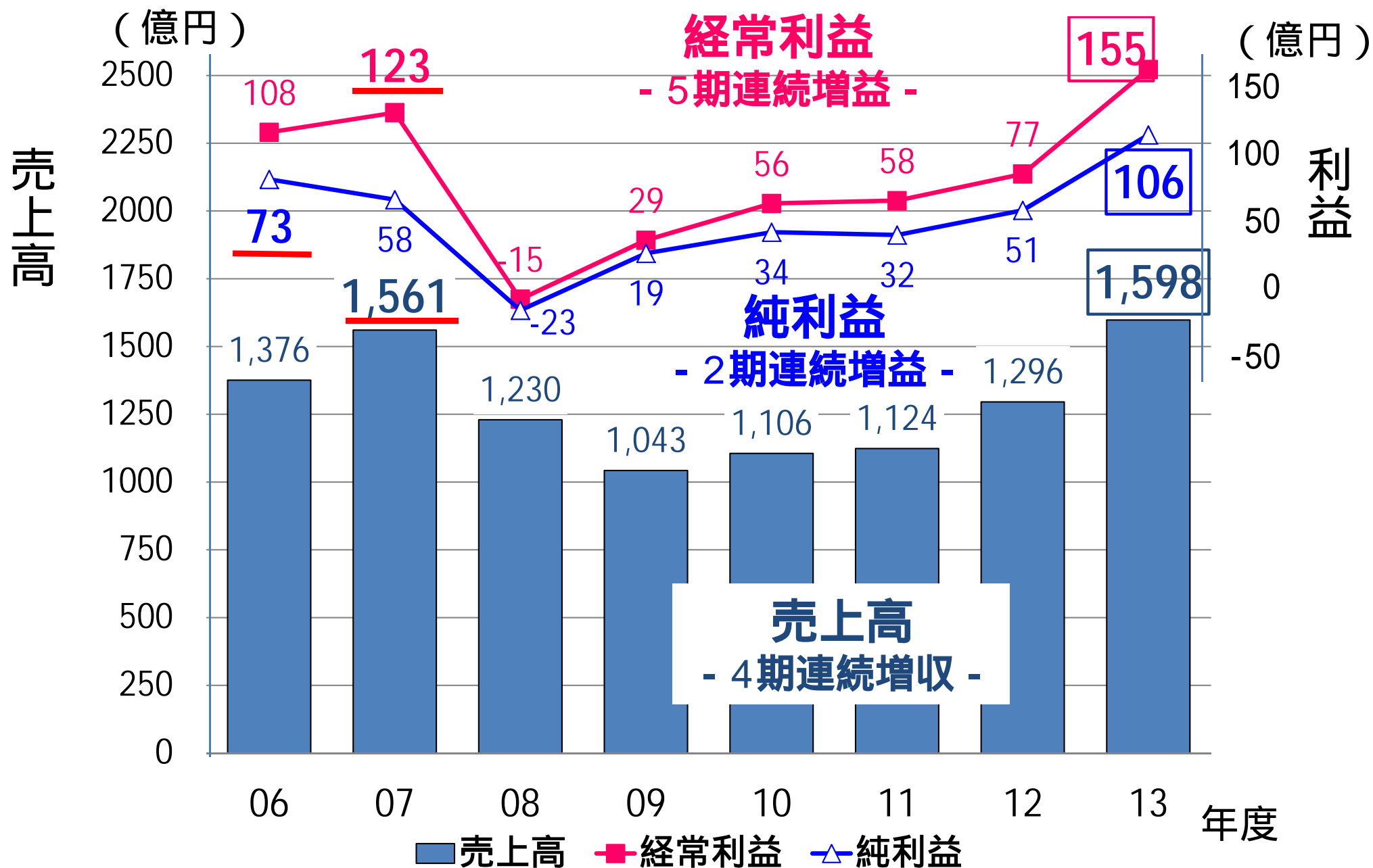
1,381

14.0%

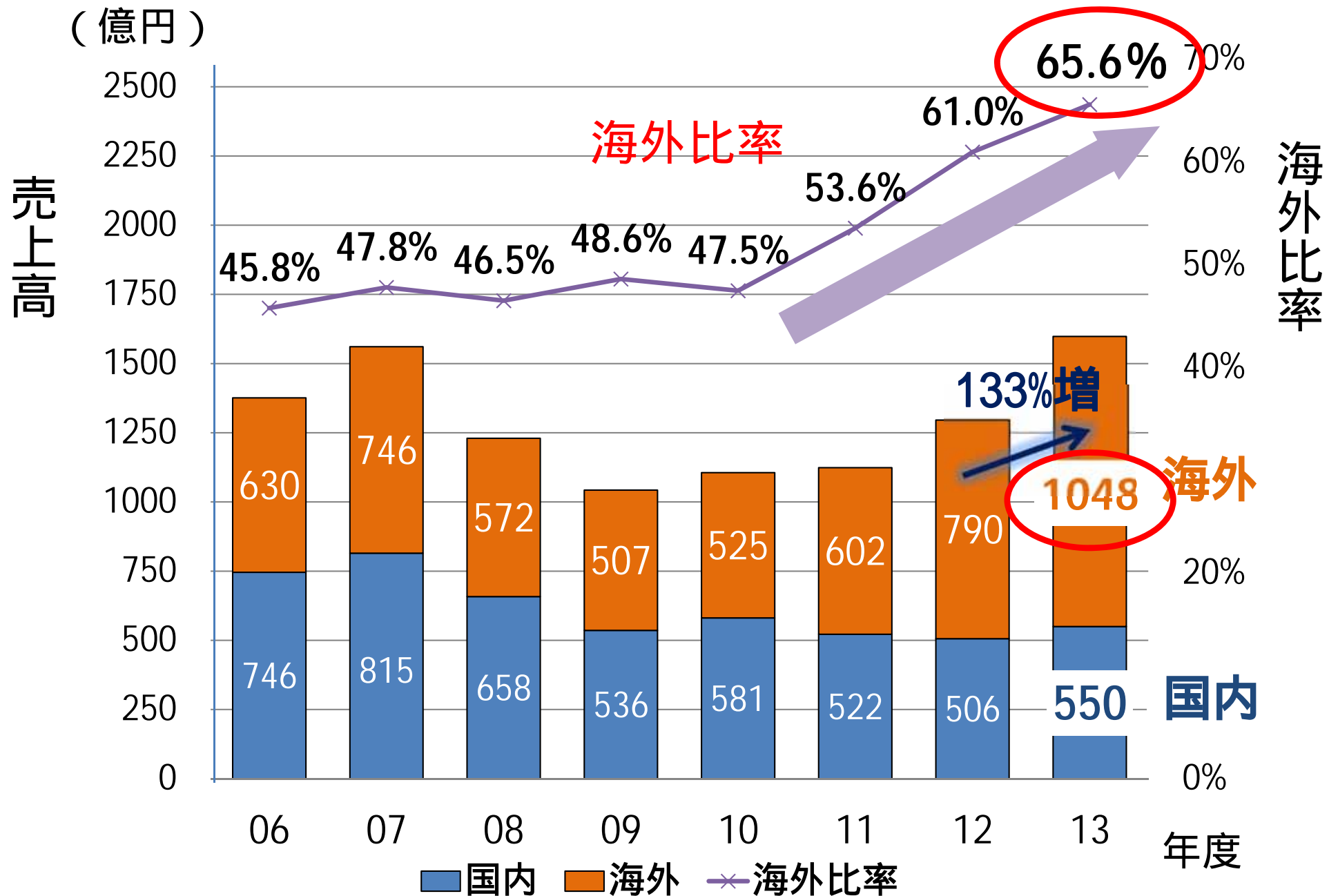
Copyright ©2011, Japan Aviation Electronics Industry, Ltd

Copyright ©2014. Japan Aviation Electronics Industry, Ltd

1-2. 過去最高の売上・利益の更新



1-3. 海外事業が成長を牽引



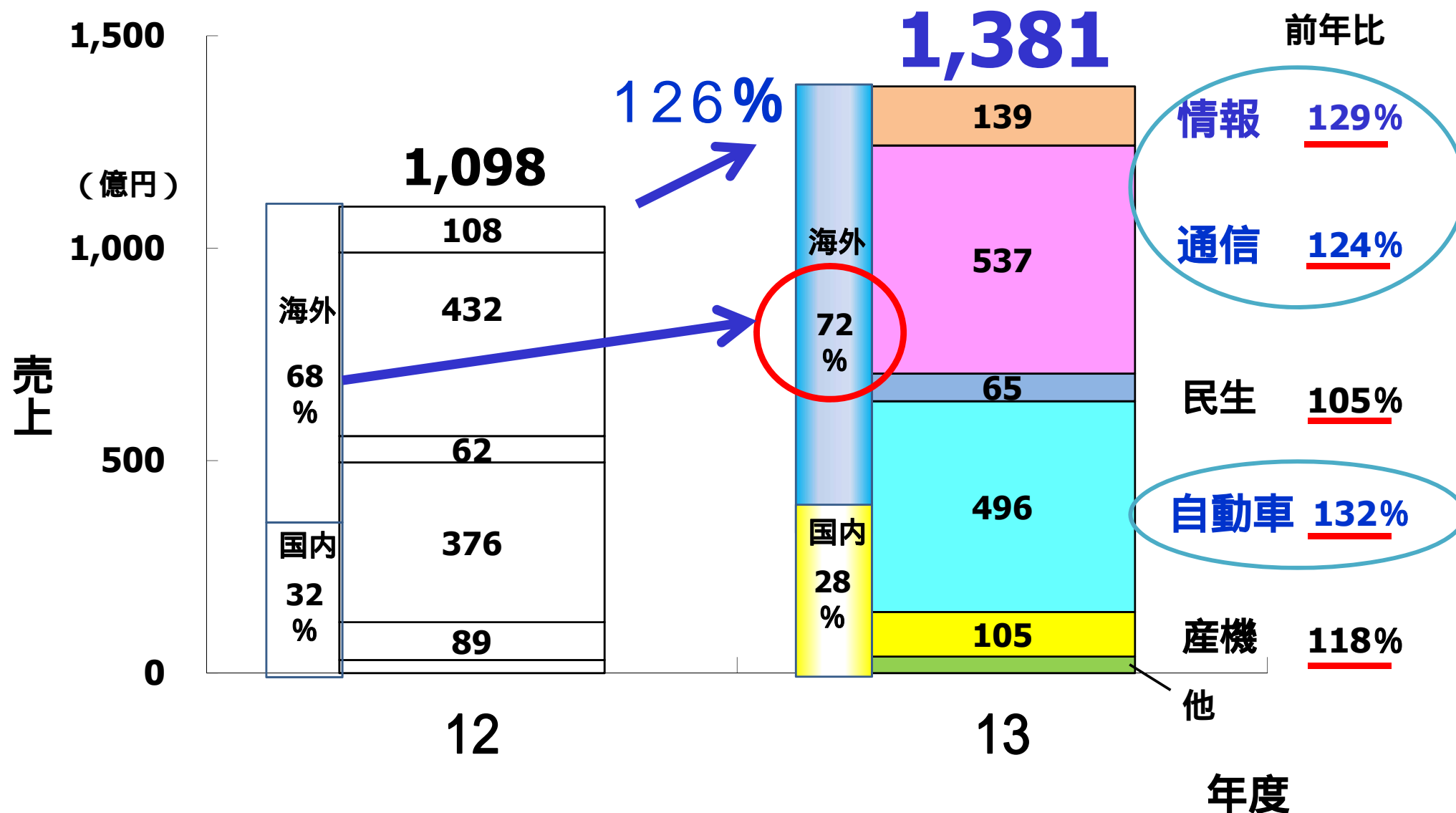
2.13年度事業部門別 売上・営業利益



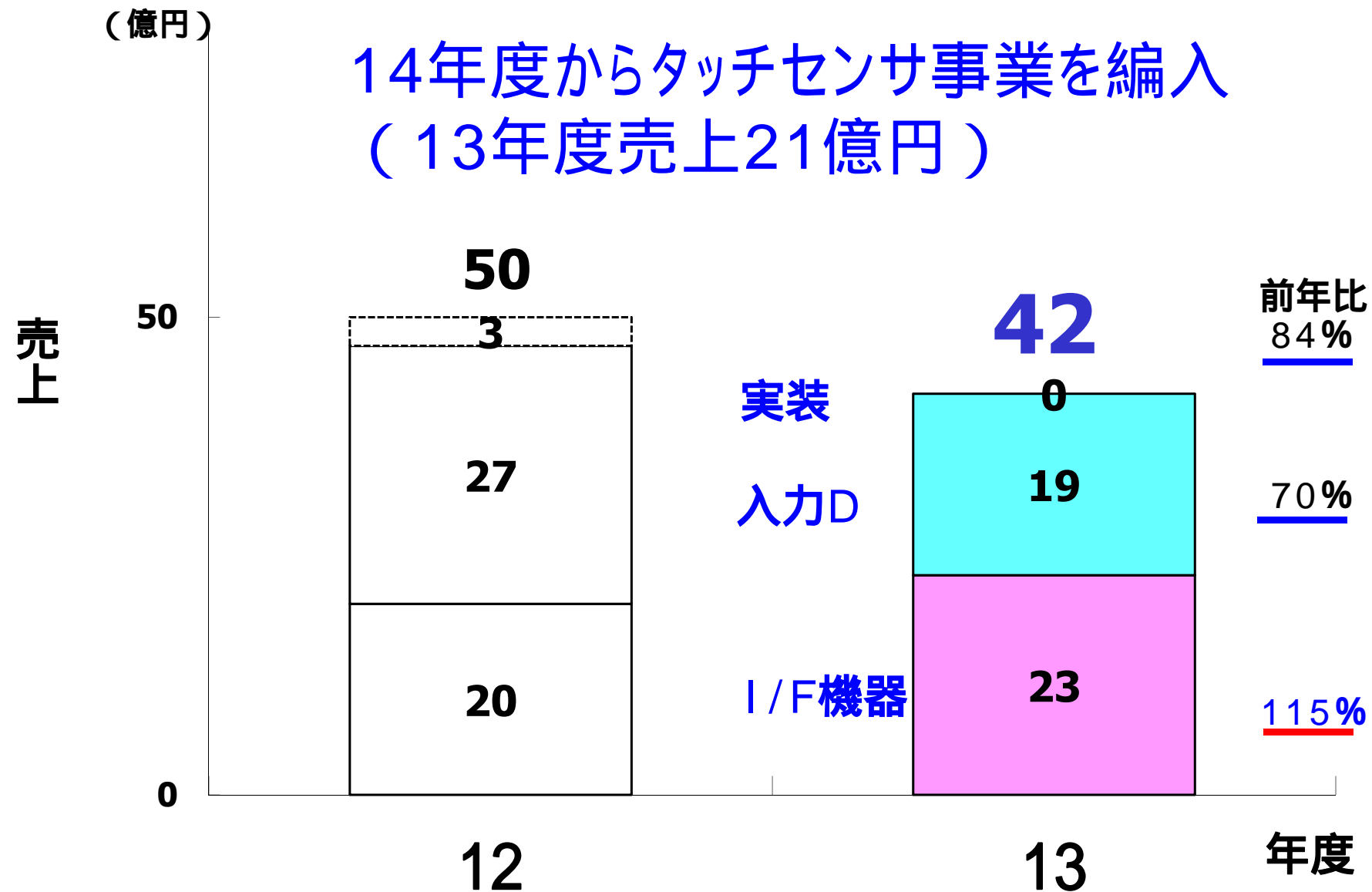
(億円)

事業部門 \ 年度	売 上		営業利益	
		前年比	() : 売上高営業利益率	前年比
コネクタ	1,381	126%	193 (14.0%)	178%
UIS	42	84%	1 (3.2%)	—
航機	146	106%	9 (6.3%)	48%
その他	28	292%	36	—
全社	1,598	123%	165 (10.3%)	192%

2-1. コネクタ事業：自動車・情報通信に 注力し、過去最高業績を達成

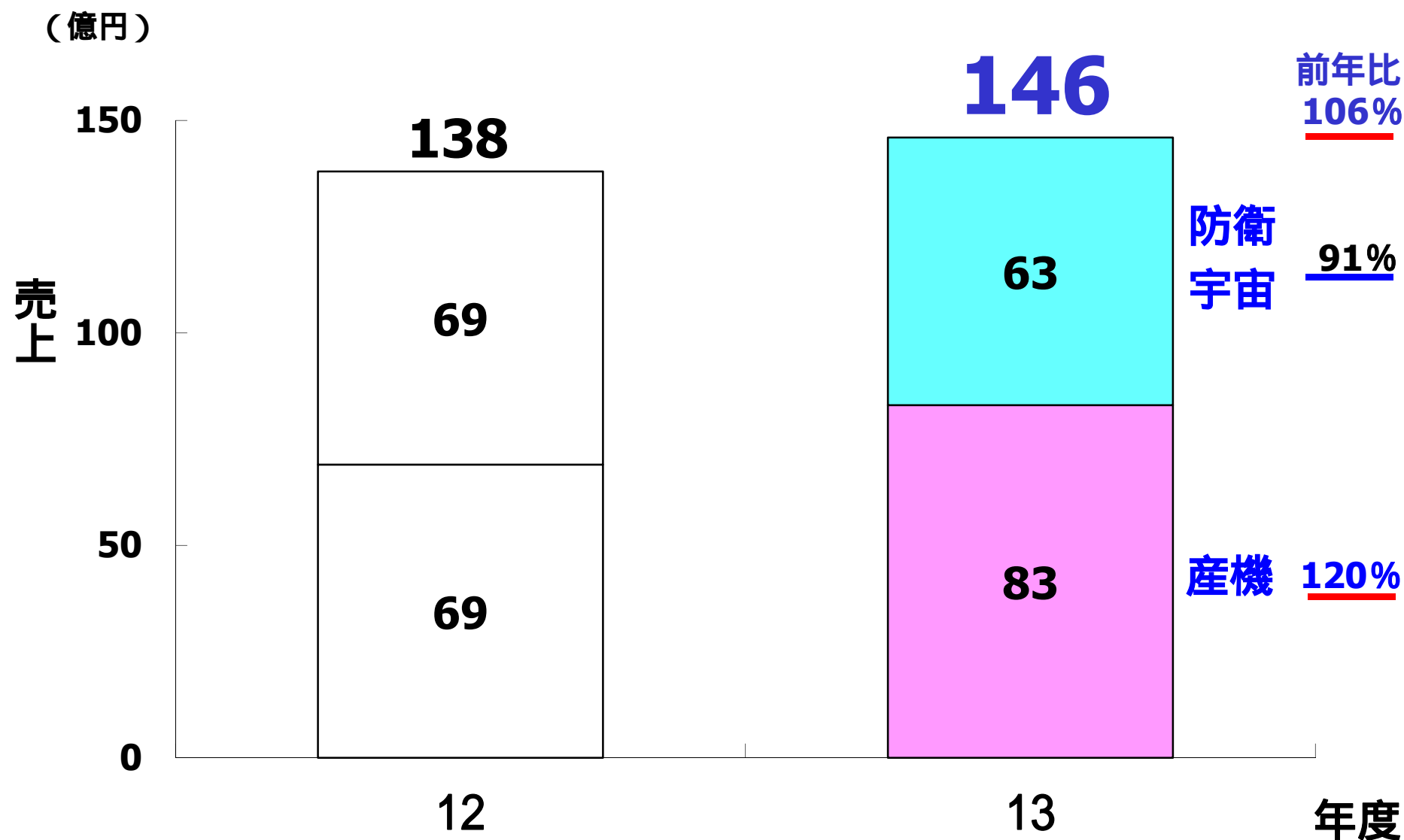


2-2.UIS事業:デジカメ向けカーソルホイール 需要減で減収



注：実装事業は2012年5月に終息

2-3. 航機事業: 産機中心に増収

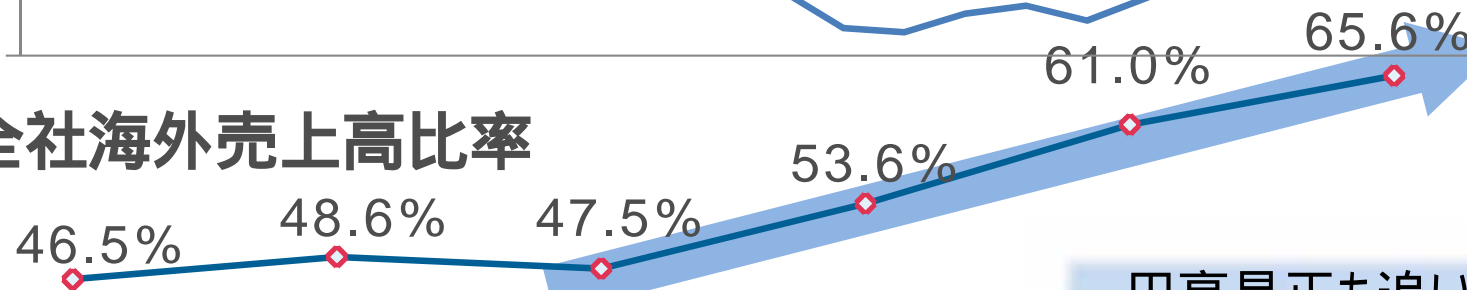


1. 内製化・自動化・効率化で、為替変動に
負けない生産体制を構築
2. キャッシュフロー重視の経営のもと、積極的な
設備投資を継続

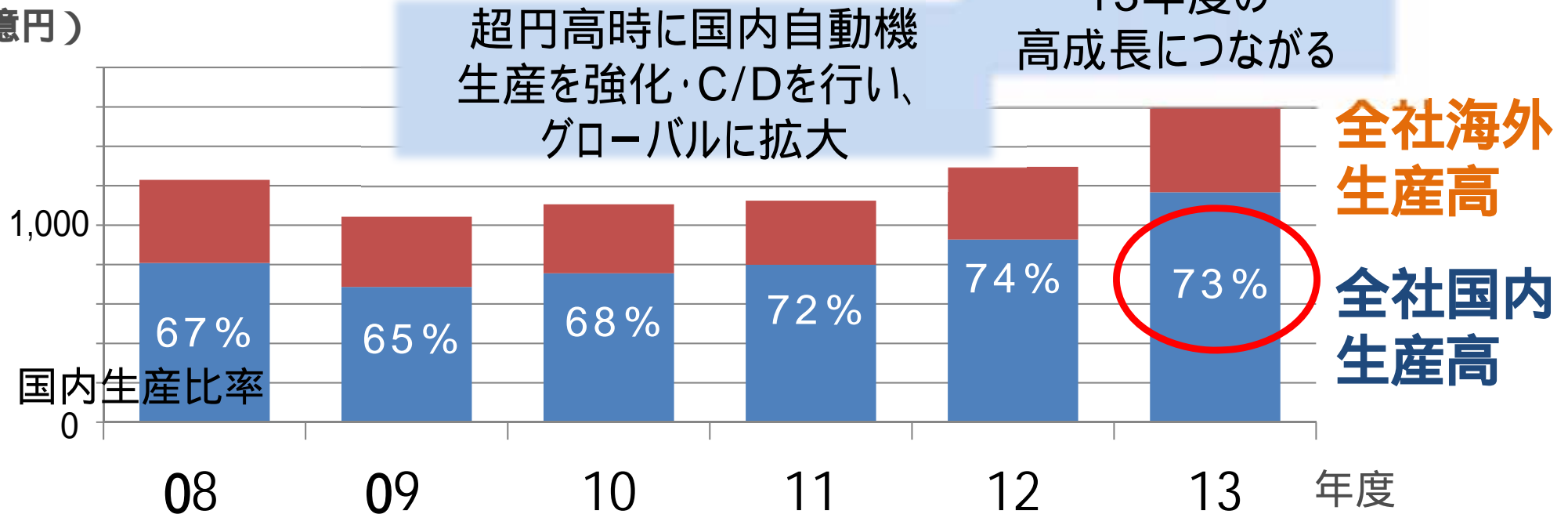
3-1. 為替変動に負けない生産体制



全社海外売上高比率



(億円)



厳しい市場環境に打ち勝つ「ものづくり」技術開発推進 (超高速、高稼働、自動化/省人化)

プレス、成形、めっき高速化

・・・ 従来比1.2～1.5倍を実現

組立高速化

・・・ 従来比2倍を実現



自動機生産の拠点 弘前航空電子

自動車用コネクタ・ハーネスのボリューム増に対応

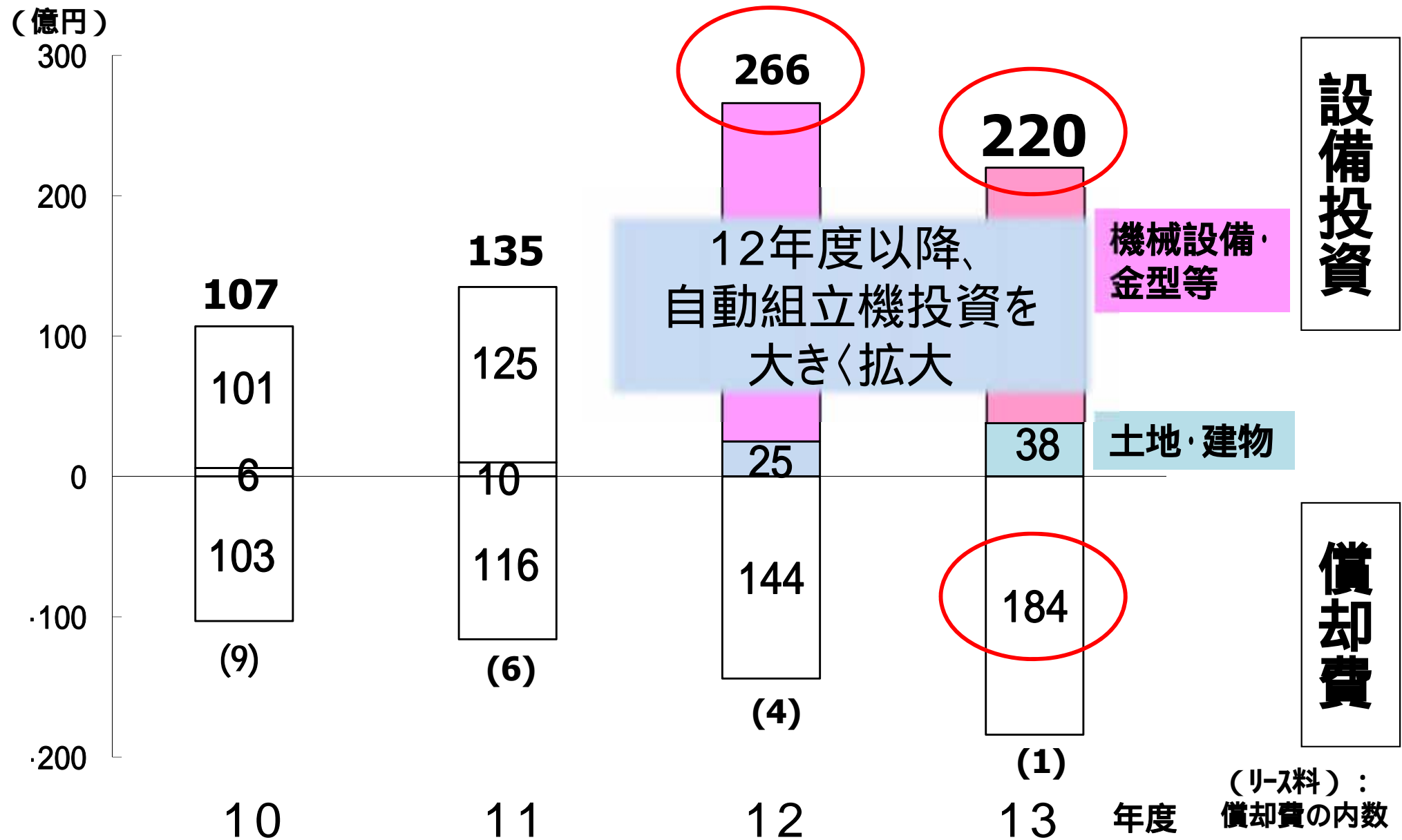
- ・2012年 6月 JAEティファナ第5・6工場拡張
- ・2013年11月 JAEフィリピン第2工場竣工



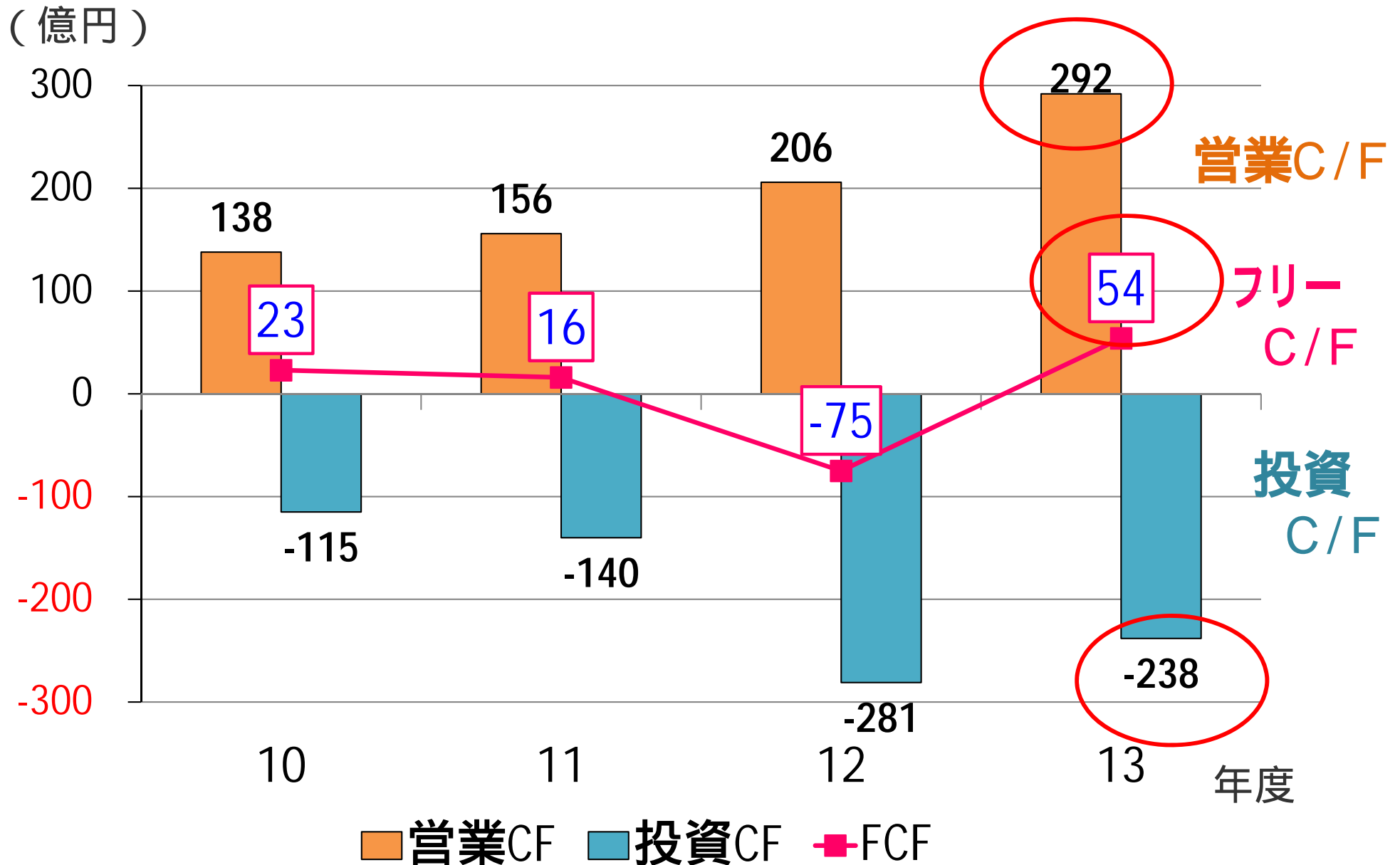
JAE Tijuanaのハーネス生産ライン



3-2. 積極投資を継続



3-3. C/F重視経営のもと、13年度はFCF黒字化



2014年度業績見通しとそのポイント

■過去最高の売上 / 利益更新をめざす

■基本方針は堅持

1. グローバルマーケティングと技術開発力強化に基づく的確な玉出しによる増収
2. 内製化を軸とした技術革新・生産革新の両輪による収益力強化
3. 更なる成長投資を継続し、収益に繋ぐ

14年度業績見通し概要



過去最高の売上 / 利益更新をめざす

() = 売上高利益率 (億円)

主要項目	上期			通期	前年比
		前期比	前同比		
売上高	800	92%	109%	1,680	105%
営業利益	75 (9.4%)	72%	124%	180 (10.7%)	109%
経常利益	65 (8.1%)	66%	117%	160 (9.5%)	104%
純利益	44 (5.5%)	65%	114%	112 (6.7%)	105%

2014年度予想為替レート: 100 円 / \$ (期中平均)

(億円)

事業部門 \ 14年度	上期			通期	
		前期比	前同比		前年比
コネクタ	700	94%	109%	1,460	106%
UIS	35	98%	129%	75	119%
航機	63	73%	105%	140	96%
その他	2	-	-	5	-
全社	800	92%	109%	1,680	105%

UIS事業にはタッチセンサプロジェクトを含む。

産機・インフラを第三の柱として注力 全社横串で重点3市場を攻める



14年度 全社売上の9割

(億円)

	13年度	14年度 計画	前年比
携帯機器 (主にコネクタ)	589	624	106%
自動車 (コネクタ、UIS/タッチセンサ、航機)	525	591	113%
産機・インフラ (コネクタ、UIS、航機)	265	286	108%

携帯機器

13年度 589億円

14年度 624億円
(計画)

Board to Board用
コネクタ
「シールド構造」
「ノイズ対策」

Micro SIM CARD用
コネクタ

外部インターフェース用
コネクタ

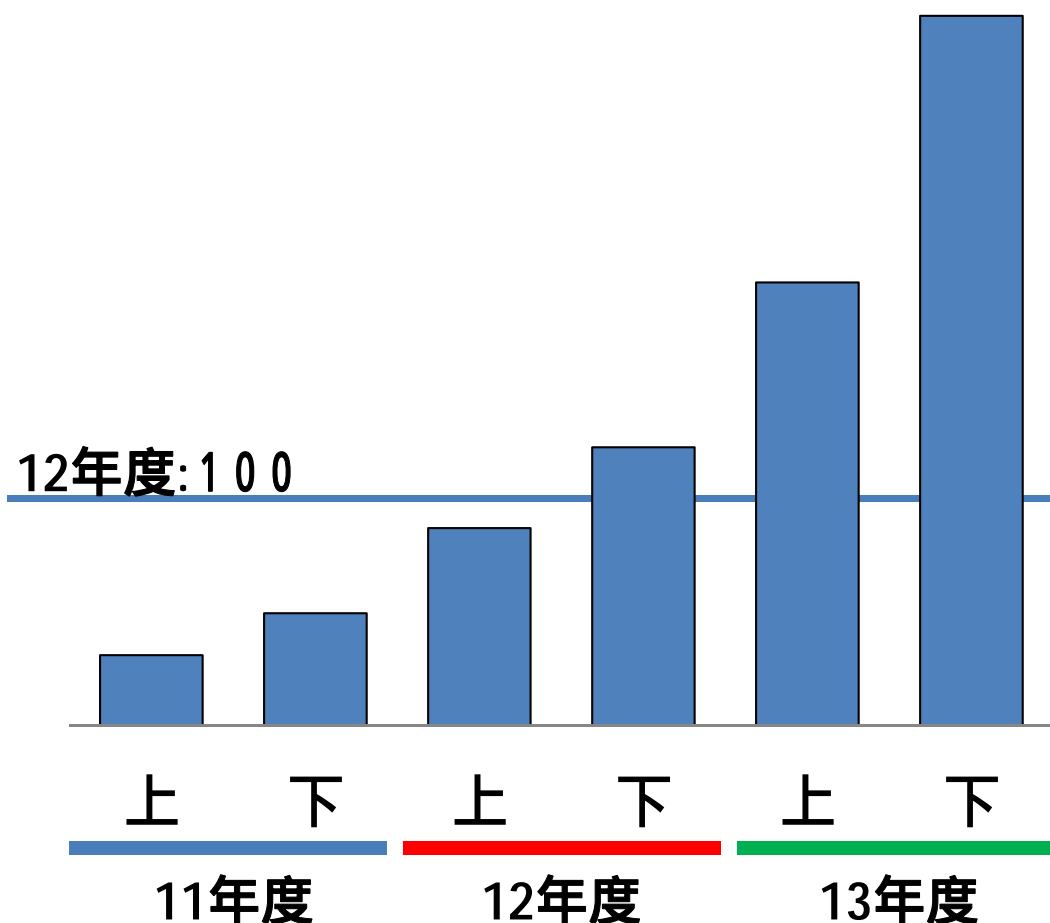
Micro SD CARD用
コネクタ



順調に成長、更なる拡大をめざし体制強化

中国ローカルスマホ向け受注推移

受注：12年度比2.3倍の伸長



営業拠点の強化

華南地区・・・J A E 香港
・・・J A E 香港 シェン事務所
(14年3月 初々拡張)
華東地区・・・J A E 上海
華北地区・・・J A E 上海北京分公司
(13年5月開設)

「自動車」で更に伸ばす



自動車（含むEV/HEV）

13年度 525億円

14年度 591億円
(計画)



静電タッチパネル



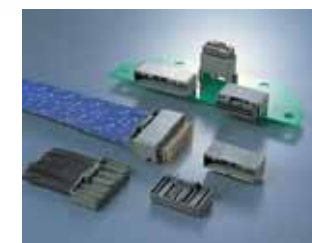
レゾルバ



R Dコンバータ



パワートレイン系



情報通信系コネクタ / ハーネス

安全系

ボディ・インパネ系

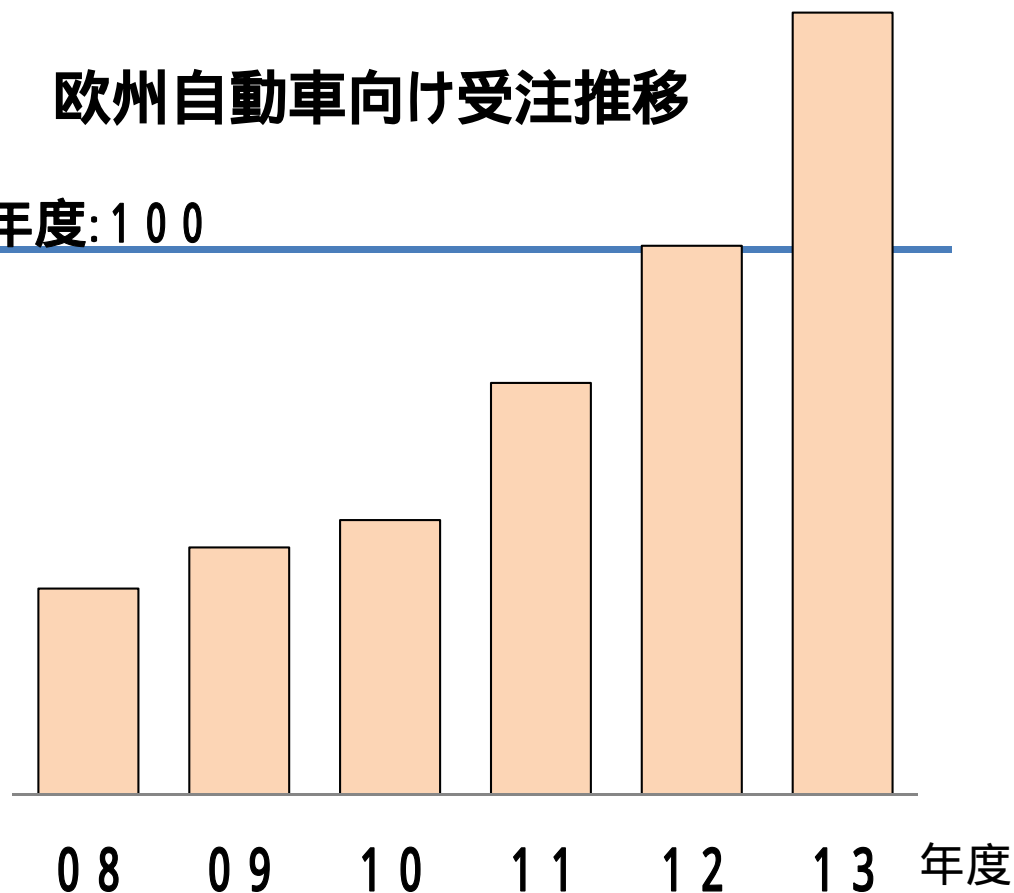
欧州自動車プロジェクトの発足

JAEオレゴンを活用した顧客向け技術サポート強化

受注：12年度比1.4倍の伸長

欧州自動車向け受注推移

12年度: 100



「産機・インフラ」第三の柱を目指す

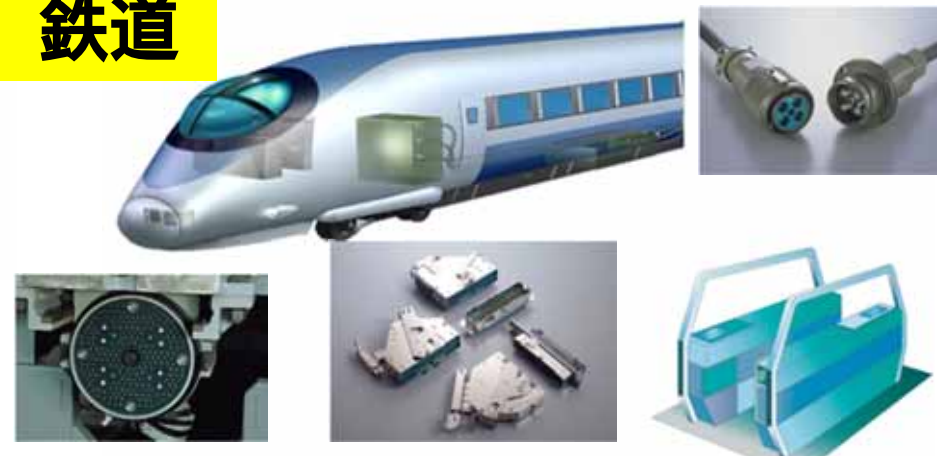


これまでも実績のある市場で更なる飛躍

F A



鉄道



13年度 265億円

14年度 286億円
(計画)

電力



医療



通信



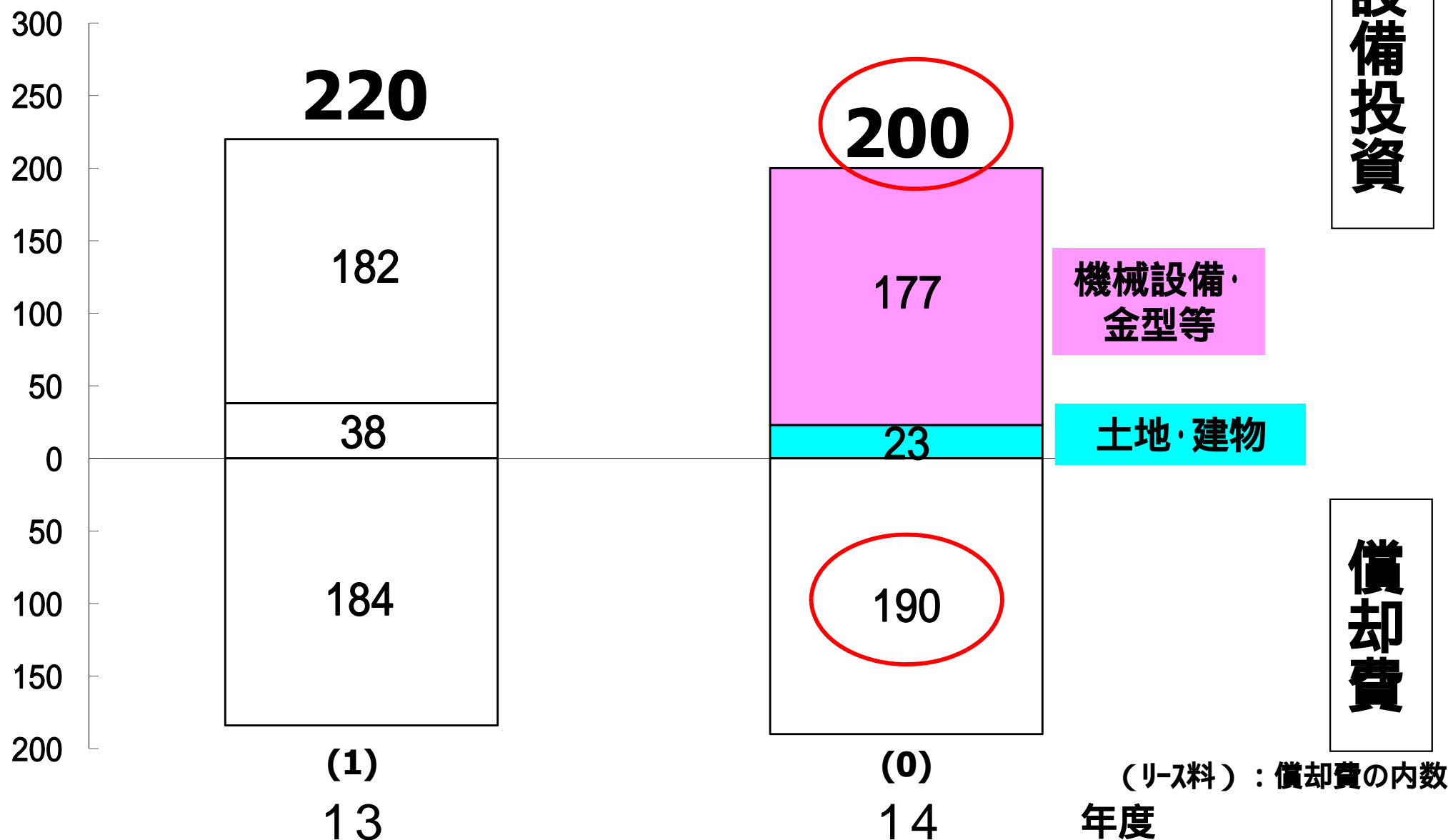
産機インフラ市場向けコネクタのものづくり改革

ロボット活用によりNC加工機の稼働時間を
大幅に向上（従来比約2倍）

積極的な設備投資を継続



(億円)



1

売上高 2,000億円以上

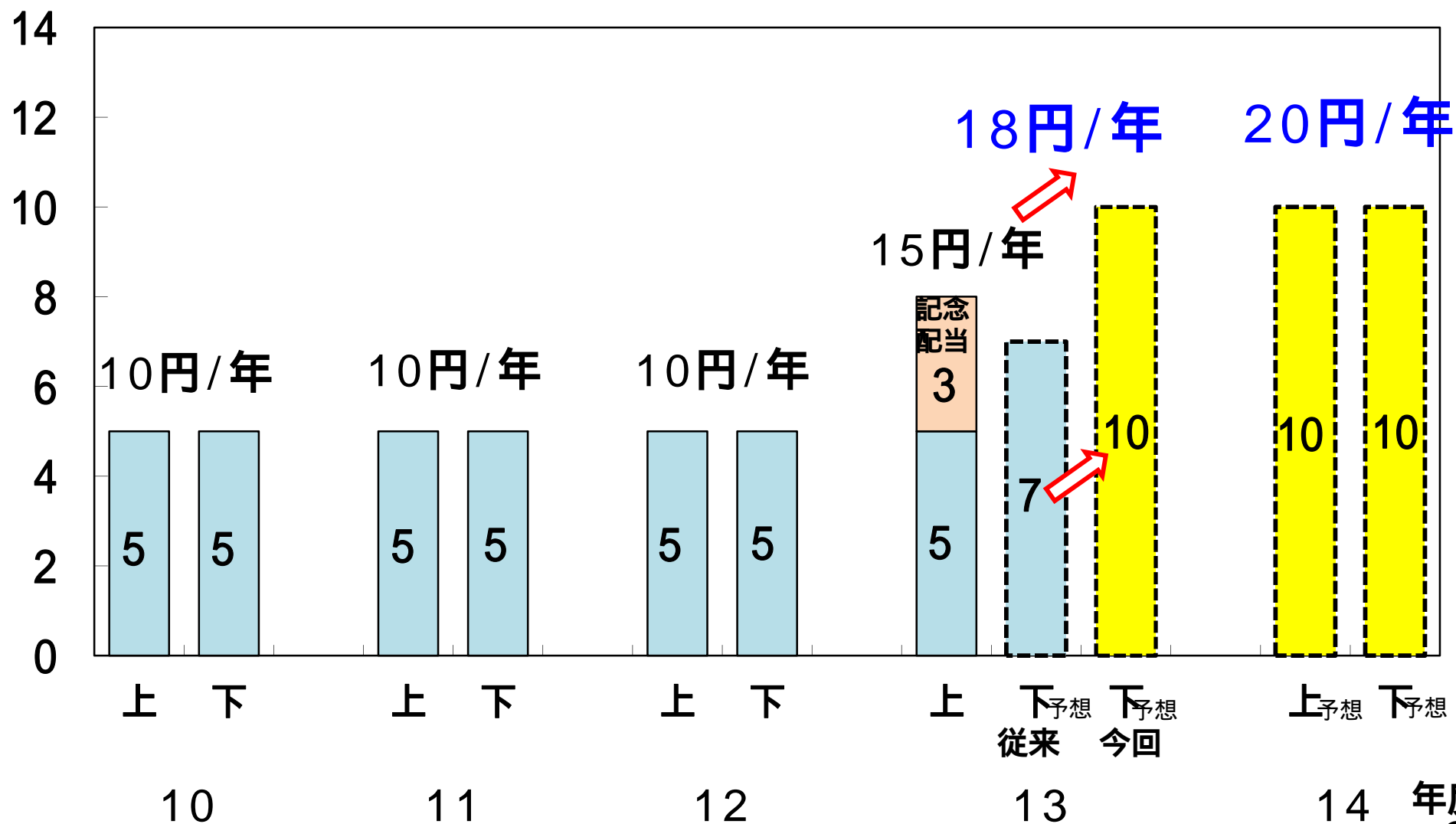
2

経常利益 200億円以上

13年度：期末配当7円 10円、年間で前年比8円増配

14年度：年間配当20円を計画

(円)



ご清聴、ありがとうございました。

< 注意事項 >

本資料に記載されている当社および連結子会社(以下JAEと総称します)の計画,戦略および業績見通し・目標は2014年5月8日現在の予測・目標であって,リスクや不確定な要素を含んでおります。

本資料に記載されている目標は予想ではなく,将来の業績に関する経営陣の現在の予想を反映したものでもありません。むしろ,経営陣が事業戦略の実行を通じて達成しようとする目標であります。

実際の業績は,様々な要因により,見通し・目標等と大きく異なる結果となりうることを予めご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としてはJAEの事業領域を取り巻く日本・欧米・アジア等の政治・経済情勢,市場におけるJAE製品(ソフト製品を含む)に対する需要変動,競争激化による価格下落圧力,および競合各社に打ち勝ち供給し続ける能力,海外市場における事業拡大能力,事業活動に関する法規の変更やその不透明さ,潜在的な法的責任,為替レートなどがありますが,これら以外にも様々な要因が有り得ます。世界経済の悪化,世界の金融情勢の悪化,国内外の株式市場の低迷などにより,実際の業績等が経営目標その他の見通しと異なる結果となる可能性もあります。将来予測に関する記述は,その日現在のものであることをご承知おきください。

新たなリスクや不確定要因は随時発生することが明らかですが,その発生や影響を予測することは不可能であります。また,リスクや不確定要因がある為,将来予測に関して記述されている内容が実際には起こらない場合もあります。これらの記述に全面的に依拠することの無きようお願いいたします。